

夕陽の景観体験に関する基礎的研究

前橋工科大学大学院 学生会員 丹羽 大樹

1. はじめに

我が国日本では浄土思想（例えば西方極楽浄土）が典型であるように、昔から夕陽を含む夕景が大切にされてきた。そこで、本研究では夕景の中心となる夕陽を対象とし、それを美的に捉えるための景観条件について検討した。

2. 研究対象

本研究の分析対象として、データ①「日本の夕陽百選」（web で公開）データ②「別冊太陽 “日本の郷愁 夕焼けこやけ”」（1999 年平凡社）に取り上げられている事例を用いた。それは、それらが既に美しい夕陽景観として、評価が定まっている場所とみなせるからである。また、事例の詳細な検討をDVDのデータ③「追憶の夕景・群馬」（上毛新聞社）をもとに行った。

3. 分析結果

3-1. 抽出したデータについて

データ①は 2005 年 12 月現在で、全国 70 地域が認定されている。全体的にみて日本海側、瀬戸内海に多く、都道府県でみれば大阪府が顕著であった。内陸部ではあまりみられなかった。データ①から 111 ケ所、②から 34 ケ所、合計 145 ケ所の視点場が抽出できた。

3-2. 夕陽のタイプ分類

資料を用いて夕陽の沈み方を構図論的(景観構成要素の近景、中景、遠景における置き合わせ)に分類した。その結果 8 つのタイプに分類することができた(図-1)。

3-3. 視点場について

まず、視点場の立地は(図-2)に示すとおり、浜辺の割合が高いことがわかる。また、展望台、公園などの整備された場所が選ばれていることもわかる。建物には美術館、寺、門などが含まれていて、その他は高原、丘、湖畔、道などであった。

視点場の立地とタイプを組み合わせると、B、Fタイプ以外のタイプは浜に多く立地しており、Bタイプは見通しの利く展望台や公園に立地している場合が多かった。Dタイプは、浜のほか公園になっている場合が多かった。次に視点場の高さは(図-3)に示すとおり、標高 10m以下が一番多く、50m以下までに全体の 3 分の 2 が分布している結果となった。このことから標高の低い所が夕陽スポットでは好まれていると言える。ただし、視点場の高さ

とタイプを組み合わせるとタイプによって標高はバラつきがあり、Bタイプは標高の高いところに多く立地しており、Dタイプは幅広く分布していた。

特に、視点場の立地が多かった浜辺について見ると、浜

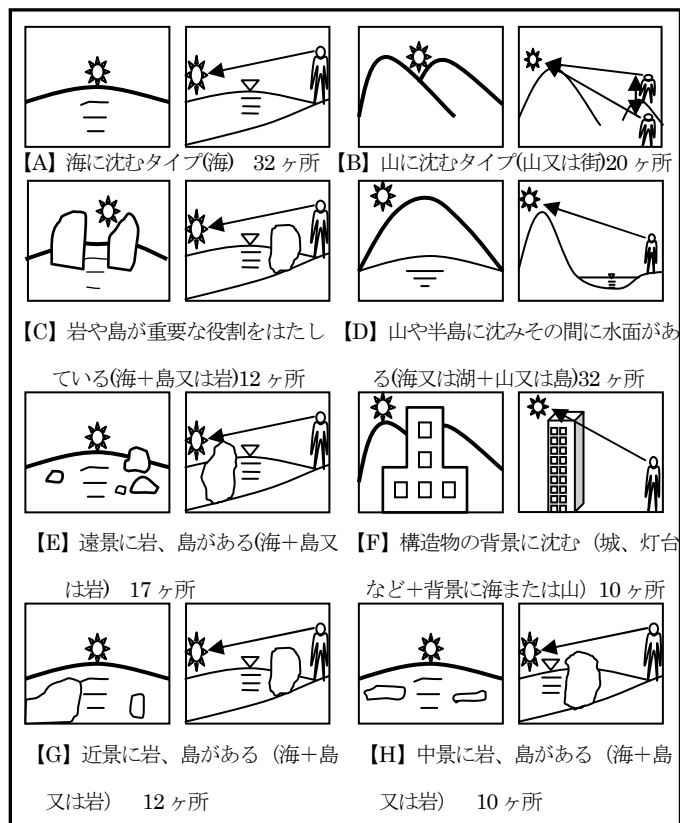


図-1 各タイプのモデル図 ※ ()内は景観構成

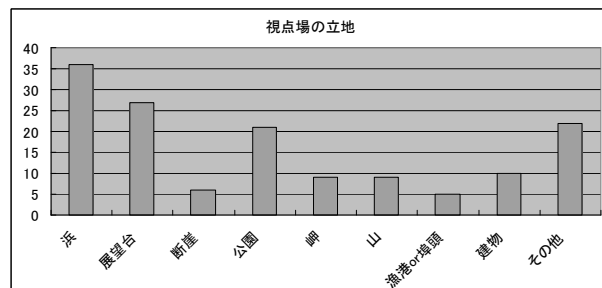


図-2 視点場の立地

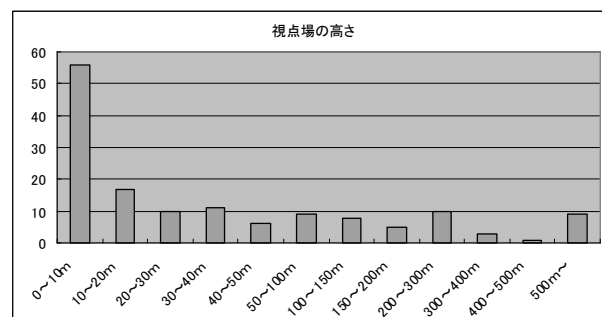


図-3 視点場の高さ

キーワード 夕陽スポット 夕陽の景観体験 夕陽百選
連絡先 〒371-0803 群馬県前橋市天川原町1-4 1-1 6

ファミリー太田 2-A 丹羽大樹

辺から水平線までの可視距離は「式 $\sqrt{h \times 3.9}$ h : 視点の高さ (m) (地球の丸みを考慮)」から求められ、視点の高さを2mとすると約 5.5kmとなる。このように浜辺では、比較的短い距離の景観構成要素が問題になることが言える。

3-5. 季節による変動

季節により太陽の沈む位置は図-4のように変動する。例えば群馬県前橋市(北緯 36° 東経 139°)の場合、季節変動



図-4 季節による変動

は夏至30.2° 北より、冬至28.8° 南よりである。こうしたことにより夕陽スポットとされている場所でも季節によって沈み方が変動する。そこで、タイプごとに数ヶ所選び評価されたタイプ通り

に沈むか検討した。その結果、一年間通してタイプ通りの夕陽の沈み方をしたのが 25ヶ所中 13ヶ所、次いで3シーズンが8ヶ所であった。ただし、C、Fタイプは特殊な沈み方をするので一定期間に限定される。C、Fタイプのような特殊な例を除くと、ほとんどが季節に関係なく夕陽を見ることができるということがわかった。

4. 群馬県内の夕陽について

これまでの分析結果を踏まえ、群馬県内で評価の高い夕陽スポット(データ③による)15ヶ所(表-1)について景観特性を探った。結果は以下の通りである。

表-1 群馬県内の視点場 (可視距離は障害物がない場合)

視点場名	市町村名	標高(m)	可視距離(km)
榛名湖	榛名町・伊香保町	1087	128.58
草津白根山	草津町・六合村	2148	180.75
草津白根山	草津町・六合村	2008	174.76
たくみの里	新治村	562	92.46
観音山	高崎市	185	53.04
赤城南麓	前橋市・大胡町・富士見村	380	76.02
赤城西南麓	北橋村	280	65.26
ぐんま天文台	高山村	743	106.31
敷島公園	前橋市	114	41.64
妙義山	妙義町・松井田町・安中市	486	85.98
水道山	桐生市	210	56.52
桜山公園	鬼石町	584	94.25
旧碓氷峠	松井田町	1210	135.66
つつじが岡公園	館林市	18	16.55
浅間山	嬬恋村・長野原町・倉渚村	1386	145.19

4-1. タイプ分類

分類を行ったところ、Bタイプの沈み方をしたのが10ヶ所、Dタイプが3ヶ所、Fタイプが1ヶ所であった。また、全国の夕陽スポットのタイプに当てはまらないものが1ヶ所あり、そこは夕陽を觀賞するというよりも、むしろ夕景(夕陽は見えず情景を楽しむ)の要素が強い。また、群馬県は海がなく、榛名、赤城、妙義などの美しい山が多くみられるのでBタイプが大半をしめる結果になった。

4-2. 視点場について

視点場の立地は公園が5ヶ所、施設(美術館、天文台、道の駅)と湖池周辺がともに3ヶ所ずつ、峠が2ヶ所ずつ、道と山の頂上が1ヶ所であった。全国の夕陽スポットと同じように、公園や施設のように整備された場所が多かった。全国の夕陽スポットでは見られなかった峠が視点場となっており、山の多い群馬県の特徴と言える。

次に表-1に示すとおり、全国の夕陽スポットと比べるとやや山が多い影響から標高の高いところにあることがわかる。可視距離を見ると50km以上の視点場がほとんどであるが、実際に夕陽が沈んでいく山と視点場の距離を調べたところ、15km以内の場所が12ヶ所あった。これより、夕陽が沈んでいく対象の山が視点場と比較的近い位置に存在している視点場が多いと言える。

4-3. 季節による変動

季節による変動は、13ヶ所は一年中同じタイプの沈み方で沈むことがわかり、季節に関係なく夕陽を見ることができるという全国の夕陽スポット分析によって得られた条件と一致する。

5. 夕陽觀賞視点場の抽出

以上から得られた条件を図-5のようにまとめた。条件を視点場抽出の指標とし、前橋市近郊で適合する場所の抽出を試みた。結果例を図-6に示す。

- ・8つのタイプのいずれかに分類できる。
 - ・公園や展望台のように整備された場所
 - ・標高はできるだけ低い場所
 - ・夕陽が近くに沈んでいくように感じられる場所
 - ・季節変動による影響を受けない場所

図-5 夕陽觀賞視点場の条件

- ・場所は群馬県北橋村の真壁調整池
- ・東京電力佐久発電所の調整池として1928年に完成したダム湖
- ・標高270m、面積0.125km²
- ・左図の様に視点場をとるとDタイプの構図
- ・水面への夕陽のうつりこみがある
- ・季節変動を受けない
- ・夕陽の沈む山までの距離は約15.5kmで夕陽を近くに感じられる

図-6 夕陽觀賞の場(真壁調整池)